



新副臨床検査技師長ご挨拶



皆さま、日頃よりお世話になっております。2023年4月より検査部副臨床検査技師長を拝命いたしました岡有希と申します。私は、岐阜大学医学部附属病院検査部にお世話になり今年で6年目となりますが、入職してからの5年間はISO15189認定取得・大規模な検査測定機器更新・システム更新等があり、目まぐるしい日々であったと自身振り返っております。そのような中、改めて大学病院の役割を意識した検査部の運営・構築に努めたいと思っております。特に最近、他部署のスタッフの方々とお話させていただく機会が増え、意見交換・情報共有は「病院運営への貢献」「タスクシフティングの推進」等に繋げていく為にも、非常に大切な事と実感しております。今後も、検査部がチーム医療に貢献できるよう頑張っていきたいと思っておりますので、皆様のご意見・ご指導を引き続きよろしくお願いいたします。



新人紹介（前半） 新しい仲間がふえました！！

横山颯大
(微生物検査部門)



今年度の4月より岐阜大学医学部附属病院検査部 微生物検査室へ配属になりました横山颯大と申します。臨床検査技師として大学病院の責務の一端を担えるよう職務を全うし、地域の患者さんに安心していただける良質な医療を提供する為に日々、精進して参ります。

伊藤亜衣梨
(生理検査部門)



今年度4月より生理検査部門に配属となりました、伊藤亜衣梨と申します。患者さんに安心して検査を受けていただけるように、接遇から検査結果の解釈すべてにおいて、レベルの高い検査技師になりたいと思っております。学ぶことばかりですが、何事にも喰らいついて知識や技術を深めていきます。よろしくお願いいたします。

安藤穂乃実
(血液検査部門)



今年度の4月に岐阜大学医学部附属病院の検査部に入職いたしました安藤穂乃実と申します。配属先は血液検査部門です。まだまだ分からないことばかりではありますが、日々学ぶ姿勢を忘れず、患者さんや職員の皆様のお役に立てるよう尽力致します。これからどうぞよろしくお願い致します。

立川将也
(生化学免疫検査部門)



2023年4月より生化学免疫検査部門に配属されました立川将也と申します。前職でも生化学免疫検査に携わっておりました。これまでの経験を活かしつつ、これからも努力を重ね、多くの知識や技術を身につけていきたいです。そして「正確・迅速・精度」を伴う検査ができるよう精進してまいります。

検査部門 のご紹介

検査部内には、様々な検査部門があります。今回は生化学・免疫検査部門をご紹介します。

生化学・免疫検査部門

技師数 6人



紹介者 開原 弘光 技師歴 2年

? どんな検査をしているの？

検査受付時間 8:30~17:00
問い合わせ先 7251

生化学免疫項目について、患者さんから採取された血液や尿、髄液などの検体を用いて検査を行っております。検査項目は多岐に渡り、生化学検査では電解質や血糖、脂質、肝・腎機能など全身状態を反映する検査を行います。また、免疫検査ではホルモン、腫瘍マーカーなどの特異的バイオマーカーの検査を行います。これらの大部分が自動分析装置で行われることから検査機器のメンテナンスや精度管理を行うとともに、検体の受け入れから検査前処理、結果を日々徹底して行うことで正しい検査結果を報告できるように心掛けております。これからも迅速で正確な検査を提供し続けられるよう頑張っていきます。

? どんな検査をしているの？

生化学免疫検査部門は2021年初頭に大規模な機器更新を迎えました。現在では生化学検査・免疫検査ともにメインで使用する機器が大型化し、かつ同一の検査機器を2台体制で運用しております。これにより以前はメンテナンスの都合等でご不便をおかけしておりました一部の院内項目について、完全に24時間体制での検査が可能になったとともに、検査件数の多い外注項目を一部院内化することができ、より一層臨床への貢献を増しているところです。また、これらの検査に必要な分注、搬送、測定、検体保存までの検査プロセスは、一つの搬送ライン上で自動的に行う仕組みとなっています。この搬送ライン上にはいくつもの自動分析装置が接続され、提出された採血管のバーコードを読み取ることで検査を進めていくため、検体の取り違えを防ぎつつ迅速な検査結果報告を行える安心・安全な検査体制を構築しています。

検査体制の盤石化の反面、要員の人数に対して管理する機器が多くなり、機器同士の動線の複雑化なども相まって、機器に異常をきたした際の対応が難しくなる課題がありました。搬送接続されたすべての検査機器のモニタリングのための管理システムも構築することで最小限の人数での運用を可能にしました。検査に使用した材料はすべてシステム上で管理されており、一定期間内の追加検査の依頼に対しても迅速な対応を可能としています。特に分離後血清の保存用検体は、基本的に検査用検体とは別にクリーンな状態で保管されているため、追加検査による再採血の頻度を抑え、患者さんや医療スタッフの負担軽減に寄与しています。

i 生化学免疫検査部門 からのお知らせ

茶色の採血管（生化・免疫）について、可能な限り5mL以上（規定量は9mL）の採血にご協力お願い致します。

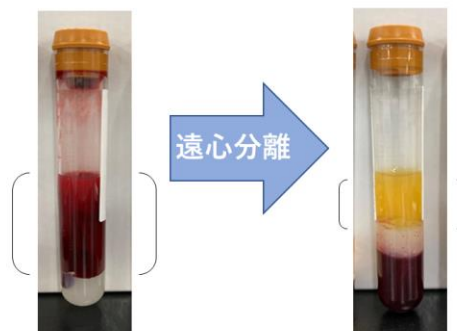
採血量が少ないと、溶血などが起こりやすく、検査値に影響がある項目があります。

正確な検査結果を提供するためにも、ご協力のほどよろしくお願い致します。

採血量にご注意ください！！

採血量が十分な場合

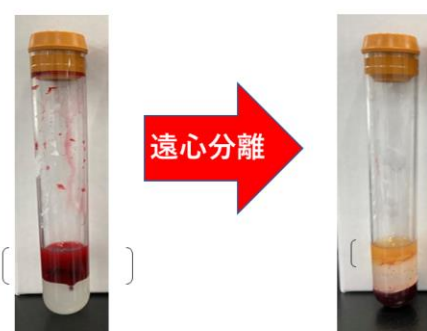
採血量 5mLの場合（規定採血量 9mL）



- ・検査に十分な検体量がある
- ・溶血が起こりにくい
- ・追加検査に対応する余地がある。

採血量が不十分な場合

採血量 2mLの場合（規定採血量 9mL）



- ・量不足で複数項目検査できない場合がある
- ・溶血しやすく、検査値へ影響する項目あり
- ・追加検査に応じることが出来ない

INFORMATION

検査部レター編集部よりお知らせ



検査部レターにて、「〇〇検査って何?」、「〇〇検査の条件は何?」など検査の疑問を募集しています。今後、内容を精査し検査部レターにて疑問点にお答えさせていただきます。

(本フォームではクレーム等は受け付けることができません)

下記Googleフォームまでお気軽に投稿ください。

<https://forms.gle/9g8oCwuVMSvXiiC4A>



QRコードからどうぞ

